

船とガス検知器

私たち社会の中で、石油・ガスの施設、化学薬品の施設など、様々な場所でガス検知器が使用されています。その中の特徴的なひとつ、“船”の世界でもガス検知器が重要な役割を果たしています。

船と言っても、旅客船、軍艦、漁船、コンテナ船など・・・いろいろな種類があります。ガス検知器が必要そうな船と言えば・・・タンカー！ のイメージでしょうか。

もちろん正解で、タンカーで運んでいる大量の石油やガス、化学薬品などは危険物ですので、漏洩（ろうえい）を検知するためにガス検知器が働いています。

船は構造上の特徴として、船体に浸水しないように多くの密閉空間によって作られています。密閉された空間内に積荷の危険物が漏れると・・・大気に開放されていないためにガス濃度が上昇し、何かをキッカケに爆発・火災や中毒などの大事故となるおそれがあります。

爆発・火災事故では、人命だけでなく、燃料や積荷の油の流出など重大な環境被害の危険も伴うため、ガス検知器は船にとって重要な設備なのです。

もうひとつ、船には上記のような爆発・火災防止や中毒防止以外にも、重要なガス検知器の役割があります。それは密閉空間内での“酸欠防止”です。

密閉された空間内では様々な原因で酸素が消費され、酸素濃度が低下していきます。

例えば、船体の鉄の酸化による消費、溜まった海水中の微生物等による消費、積荷（農作物・木材など）による消費など・・・これらはタンカーに限らず、様々な種類の船に潜む危険のため、多くの船にはガス（酸素）検知器が搭載されているのです。

海に囲まれた日本のみならず、世界中のヒト・モノがつながる現代においては、船はますます活躍し、私たちの生活を支えています。そのようなライフラインの一端をガス検知器も担っているのです。

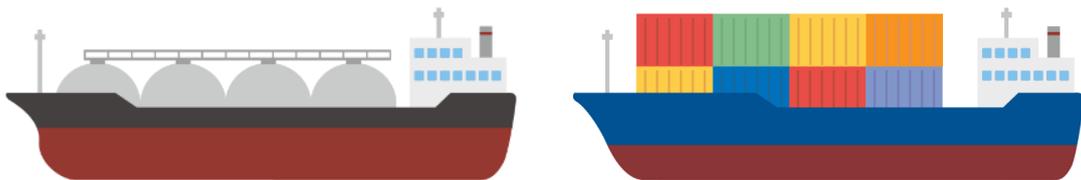


イラスト : 「イラストエイト」 <https://illust8.com/>